



Title	新年号
Author(s)	辻野, 直三郎; 堀, 三津夫; 生沢, 万寿夫 他
Citation	makoto. 1974, 5, p. 2-8
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86260
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka



新年を迎えて

財団法人大阪防疫協会

理事長 辻野直二郎

永遠に変わることなき宇宙大自

然の運行原理に基づいて森羅万象はここにあららしい日之出を迎える。万人ひとしくこれを新年と呼び歳旦と称して社頭にぬかづき、越年を感謝し迎年を寿（ことほ）ぎ国の平和と安全、そして一家の多幸を祈願する。家においては祖先の霊にひざまづき、家族揃って新年の喜びを申しのべる。

この風習は、いつまでものこしたい大和民族の良俗でもある。さて昨年発刊した「まこと」に対し温かいご寄稿を賜わりました諸先生に対し深く感謝申し上げますとともに一層の変わらざるご配慮とご鞭撻をお願いしたい。

また当協会創立以来、本年をもって二十七年にわたる永年、なにかと御援助いただきました大阪府、市および各市町村ご当局に対しまして厚く御礼申し上げますとともに、更らに重ねてかわらざるご愛顧をお願い申し上げます。

ます。

幸福とはなんぞや

この問題ほど教養の如何、その立場の如何、年令差あるいはイデオロギーの相違、又は宗教的立場等の如何によって、その考え方の相違はさけられないところであろうが、衛生関係に奉仕する立場の私達はかく考える。

「宇宙より万人に天の恵（めぐみ）」として与えられた汚濁されない大気を自由に吸い汚濁されない水資源の良水を飲み、薬品に侵されない食物を摂（と）り、しかも適度の日光を享受して狂騒のない環境で、いわゆる

「自然環境」の中で衛生的健康体（WHOでいう精神的肉体的健康をさす）が維持され適度の文化生活が保証される状態のなかで、天命を全うすることが出来る社会こそが人間の幸福といえるのではなからうか？

特に私は「衛生的健康体」を維持することが人間の幸福追求の最優先となすべきものである

と思考する。如何に富み、高位に登り、これをきわめ、欲望のあらゆるものが満たされたとしても、衛生的健康でない者が真の幸福であり得ようか、健康こそ人間生活の第一基本的要素であると断言するに憚（はば）かれない。

この意味において私が愚言するまでもなく、衛生関係の仕事に奉仕する人々こそ、その任務は貴くもあり生き甲斐のある仕事であると確信できる。

しかるにこの生命の尊重、衛生的生活環境が人為的に仮りに破壊されつつありとするならば

この「衛生、人間の生命を守る仕事に奉仕する」立場にある人びとは勇氣をもって総合的有機的結合によってこの生活環境破壊阻止に立上らなければならぬと思う。

現代の世相を洞察するに高度経済成長の名において文化生活の向上進歩を来たしたことは否定できないことではあるが、そ

の一面において祖先より引継いだかけがえのない文化的遺産が失われつつある貴重なもののあることを忘れてはならない。

その一、二をあげるならば、「日本人の良心」と「美しい自然環境」がその最たるものであるまいか？ 誠になげかわしいことではあるが毎日の如くその事象が新聞を賑（にぎ）わしているところであって、識者のよく知りかつ嘆くところでもある。私達衛生に関係のある自然環境破壊、これは人間の生命に直接悪影響をおよぼすものであって、汚染された大気は呼吸系統の器管を侵し四日市ぜんそくなどの公害病を発生させ、水質を汚濁させて神通川事件あるいは水俣病の如き悲惨な運命、生命の危険をもたらしている。

美しい海の自然環境を保持して海の幸（さち）を与えてくれた瀬戸内海も、工場廃水でその幸（さち）を奪い、また日本民俗の生命と心を養って来た田園の幸（さち）瑞穂（みずほ）の国の主食「米」も農薬によって汚染され、その名も「汚染米」となり心と身体をむしばんで行く。開発の名においてあくなき資本により、美しい山形と自然は破壊され、豪雨災害となって

多数の人命を奪っていく。人間の生命を奪い人類を滅亡におとし入れるものは、あくことなき欲望の虜（とりこ）となった「人間」そのものの行為であることに思いをいたさなければならぬ危険の様相の時代である。

かくの如き悲壯感を懐く今日この頃の世相は、私の小さい胸を締めつけてくれる。破壊されることによってかけがえのない貴い文化的遺産、破壊されることによって起る大和民族の生命の危険、美しい自然環境破壊によって失われる民俗の良心、今にして現代に生命を享（う）けた私達は、日本人の永遠の生成発展のために「生命の尊厳と幸福な生活環境保全のために、すこやかな健康体、生命保全のために新年に際し心を新たにしたい所存であります。乞う御指導ご鞭撻のほどを。

（直堂）





新しい結核対策の樹立を望む

大阪大学微生物病研究所

所長 堀 三津夫

日本では昔は病気の王様は結核でありました。近頃では結核で死亡する人はだんだんすくなくなりましたが、今でも結核は伝染病のうちでは大將です。ことに大阪ではそうです。コレラ、チフス、などの急性の伝染病は大阪ではほとんどみられなくなり、赤痢はまだときにみられませんが、腸管系の急性疾患の多く

は食中毒菌によるものです。これらの疾病は病原菌が口からはいつて起る病気で、この点を嚴重に注意すれば病気にかかることを防ぐのはそんなにむずかしくありません。日本脳炎、インフルエンザ、ハンカ、などにはよい予防ワクチンがありますので、ワクチンの注射によってこれらの病気を予防できます。

しかし一番厄介なのはやはり結核です。大阪の結核事情は悪く、患者数、罹患率、新生生率、などいづれも二十年位常に全国で一ないし数位の間を上下している悪さです。大阪でも幼少、青年層の結核患者は非常にすくなくなっていますが、壮、老年層の患者が目立って多いのです。結核に対してもBCGと

いうすぐれた予防ワクチンがあり、結核発病はかなりよく抑えられますので、幼、少年期にBCG接種を励行することが肝要です。しかし残念ながらオトナではBCG接種の対象となるヒトがすくなく、オトナの結核予防にはBCGはあまり期待ができません。また悪いことには結核は感染してから発病するまで相当長い期間があり、発病しても目立った自覚症状に乏しいので患者の発見がどうしてもおくれまします。それで結核集団検診というのを毎年おこなって患者を早くみつめることに努力してき

たのですが、学童、生徒などではX線による障害を心配してごく近い将来から数年に一度というように検診を問いきすることになるようです。ですから集団検診にかわって患者を早くみつめる方策が、子供についても、オトナについても真剣に、しかも早急に打出されなければなりません。

あれやこれやを考えますと、大阪の結核の退治は今後に残された大変大きな問題です。府、市当局の思いきった対結核施策を切望するものであります。

* * *



一九七四年の新春雑感

大阪市立大学医学部

教授 生沢万寿夫

大阪防疫協会の機関紙「まこと」が発刊されて、一周年の新しい年を迎え、おめでとうございます。

毎年のことながら、新春のあらたな気分は、また格別なもの

まして、平和なわが国では尚更のことでございます。

この十余年の間に、わが国で

は、すべての面で多様化され、国民の生活水準は高まり、世界中からももうらやまれる程の経済の高度成長を遂げてきたのです。その反面では、自然が破壊され、次々と公害がおこり、国民の健康が害なわれ、このままでは、民族破滅の危機にさらされていることは、誰もが認める

ところであります。このような自然破壊や公害は世界中にもおこっており、人類全体の滅亡にもつながる重大な時代なのです。今こそ、地球上の全人類は、この問題にとり組んで、考え直すべき年でありましょう。私達が研究対象とする衛生害虫や動物の中にも、この二十余

年の間には、公害をおこす同じような環境条件の下で、徐々にこのような環境に適應し、繁殖を続けてきた種類もみられるのです。このような害虫は、都市化の進んだ地域は多いことは、公害とも何らかの関連があるのではないかと、とも思われてくるのです。

こんな下等な動物ですが、長年の間に、悪い環境下で、形態だけでなく、生理状態までも変ってきたと考えられるのです。この蚊にとっては、こんな条件の方が繁殖に適しているように思われますが、人間も同じ動物であるならば、この蚊と公害の関係を追求することによって、人類を公害から救うことができているのではなからうか、などと考えております。



新年の抱負



大阪府衛生部長 中谷 肇

新年おめでとうございます。

本府の衛生行政の推進につきまして、平素から並々ならぬご協力並びにご尽力いただき、心から敬意を表します。

七十年代にはいり、激動する世界情勢のなかで、国連人間環境会議が開催される等環境問題が討議されたことは、人類の将来の発展、さらには、その

存在そのものの認識が国際的に一般化したことによるものといえましよう。

このような世界情勢のなかで、我国においても環境問題は、単に公害問題としてではなく、これらの環境汚染を含んだ環境、ことに自然的、人間的な生活環境の保全整備を図り、国民の福祉、保健衛生の向上に対処してい

ねばなりません。

この事情を背景として、本府におきましても府民の生命と暮らしを守る行政指向のもとに府民の福祉、保健衛生の向上を図るため、今後の保健衛生行政が対処しなければならぬ課題が多く含まれております。

その一つは、今後の保健衛生行政の最大の目標となるであ

う成人病や母子保健等について、日常の生活の場や職場において捉まえる大がかりな体制を組む必要があります。

次に、現在の疫病構造の変化は、都市化の進展や産業の高度化などに関連していると言われておりますので、本府の地域特性を十分に考慮した保健、医療体制の整備並びに医師及び看護婦その他の医療技術者を充足するため、これら医療技術者を養成することが必要であります。

他方、大気汚染を始めとする公害、あるいは、PCB、水銀等で汚染された有害食品等による健康被害は、いまや重大な府民

の関心事となっております。伝染病予防を含めて、生活環境の保全、環境衛生の向上等、その使命と責任の重大性を通感し、一層府民の保健衛生に鋭意努力してまいりたいと存じております。あらためて、各位のご支援とご協力をお願いする次第であります。終りにあたり、貴協会の益々のご発展と皆様のご健勝を心からお祈りいたしまして、私の新年のごあいさつといたします。

年頭の辞

——ニューサンスコントロールとしてのねずみ害虫駆除——

大阪市環境保健局長 中山 信正

一九七四年の輝かしい新春を皆様お揃いで元氣にお迎えになったことと存じます。

旧年中は環境衛生、防疫対策面に種々ご協力とご尽力を賜わり、厚くお礼申し上げます。

さて、本市におきましては、下水処理地域の拡大、道路整備

の延伸、建築物のビル化など、都市開発に比例して環境整備も進展しつつありますが、こうした現状下で本市の環境衛生対策とくにそ族こん虫駆除業務を考えた場合、都市開発とは裏腹に

まだまだ多くの問題点を含んでいると言わなければなりません。

なる程、一般的な蚊やはえの発生源は相当減少しておりますが、建築物内におけるねずみ、ゴキブリ、チカイエカ、チョウ

バエなど生活に密着した害獣虫は、建築物の高層化、地下街などの増化とともに、着実に根強く定着しつつあります。

また一面、本市においてもエスリカの発生とか、悪臭を放つかメムシの問題とかいった、一連の不快感の問題も部分的に表面化しつつあります。

当初、伝染病予防からスタートしたそ族こん虫駆除業務は、近年発想の転換を迫られているのは事実であり、住民の要望度を見きわめた施策が必要となっております。

こうした意味で、これからの業務はニューサンスコントロールとしてのねずみ害虫駆除に重点が移るものと考えております。

都市におけるねずみ害虫の発生、せい息相は、都市の持つ構造と同様にまことに複雑多岐であり、その対策は至難の業ではあります。皆様とともに粘り強く対応していきたいと存じます。

末尾になりましたが、皆様のご奮闘とご健勝をお祈りして年頭のごあいさつといたします。





新年に想う

大阪府立公衆衛生研究所

所長 古野 秀雄

新年あけましておめでとうございませう。

貴協会の機関紙「まこと」が発刊されて一年、内容は豊富な記事でかざられ、読者として誠に興味深いものがあります。

このころは自然保護の動きが活発になり新聞紙上などをにぎわしております。自然環境保護

について我々のサイドではどうあればよいか、このことについて少し考えてみたいと思います。

自然は、人間生活にとって、必要欠くことの出来ない豊富な環境要素を内蔵し、生命をはぐくむ母胎であり、限りない恩恵を与えるものであります。すなわち、経済活動のための資源と

しての役割をはたすだけでなく、またそれ自体が豊かな生活の不可欠な構成要素をなしております。ことに人間と自然、そして人間の造型作品とが有機的な統一体となり、ユニークな文化的伝統を保ってきました。

我々の社会生活におけるこの自然の役割を思うとき、我々が

その価値を高く評価し、その保護保全を我々の精神習性とする

ことが、健康福祉生活推進対策の第一歩であると思えます。そしてこの立場に立つならば、これを原点として、我々は、自然を構成する諸要素間のバランスに注目する生態学をふまえた幅広い思考方法を尊重し、人間活動も、日光、大気、水、土壌、生物などによって構成される微妙な系統を乱さないことを基本方針として、自然環境保全の問題に対処することが必要と存じます。

このような意味において貴協りに専念すべきであり、今年こそ以上の目標に向けて踏み出すべき年であると信ずる。

最後に大阪防疫協会は戦後、辻野氏を中心に営々として努力を重ねその事業も文字通り防疫事業からであったが、今や環境衛生全般に発展して来ている。将来の飛躍を心から期待するものである。

(此の稿の途中に又またハイジャックのニュースあり。いよいよ心すべき年の感を深くした)

会は環境保全業務のため昭和十二年設立以来、防疫に關する調査研究、防疫工作の実施、ワクチン及び防疫薬剤のあっせん業務の外、最近ではビルの環境調査、産業廃棄物処理の分析等幅広い公衆衛生事業を行い、これを通じて衛生思想の普及、福祉の向上に寄与されていることは誠に同慶にたえません。今后共大いに公益法人として、また斯界のリーダーとしてご発展されることを望みます。

府政だより



大阪府衛生部では次の主な行事を行ないます。

○昭和四十八年度総合ねずみ駆除運動(府下一斉)

期間 一月十六日～二月末日

○第十回大阪府環境衛生大会

日時 三月(日は未定)

○移動飲食店の一斉監視指導

期間 一月中

○食品添加物製造業の一斉監視

期間 二月中

○薬事講習会

対象 薬局等の管理薬剤師

日時 二月七日

年頭にあたって

大阪府立公衆衛生学院

院長 八木 明

新しい年を迎えて新しい決意を。毎年同じことを繰返している感がないでもない。

さて、今年(西歴一九七四年(イクナヨの年))であり、昭和四十九年(始終苦の年)であるとなると下手な語呂合せだが事実大変な年になる気がする。

石油、物価、インフレ、労働

等の諸問題、我々の守備範囲でいえば、公害、医療特にその従事者の問題等真の決意が要求される年と言える。

当面の問題は以上然りであるが元来行政を基盤とした公衆衛生は西欧では環境衛生即都市計画、我国では疾病予防即防疫から出発している。この違いが現

在我国の生活環境面の遅れを招来したと考えてもいいのではなからうか。従って前述の当面の問題もさることながら日本列島改造は此の際日本列島自然環境復元及び生活環境整備へ方向転換すべきである。更に息の長い対策としては「事業は人なり」のたとえに従い腰をすえて人造

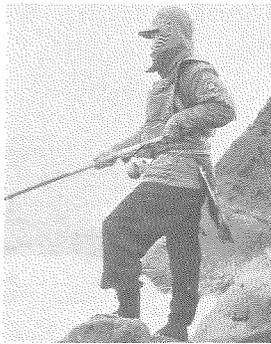
大阪府衛生部環境保健課

白江光孝

あけまして、おめでとうござ
います。釣や、魚のことしか取
り柄のない私の駄文を掲載して
いただくことを光栄に存じます。

親 父

大体、釣好きな人は親兄弟等
が好きで、感化されることが多
いようですが、川のそばで育っ
た私は、その例にもれず、「国
盗り物語」でなく、「魚捕り物
語」のようで、かつ、その主人
公のような親父（自分で何もせ
ず、ガミガミ子どもに命令して
魚をとらせる）の影響で、物心
ついたときから、必然的にそう
なっていました。だから



甲浦の磯にて

ら兄弟をろって釣上手で、三人
寄れば延々と釣の話に花が咲き
ます。

子どもの頃は、河内言葉でい
う「ジャコトリ」に釣、網、手
づかみ等すべて含まれていたも
ので、今思うと、下手クソで、
研究心なく、人に頼っていた親
父がかわいいそうでもあり、生き
ていたら色々手ほどきしてやる
のにもと思い、仏壇に家族をろっ
てお詣りし、得意のお経をうな
った次第です。

釣 キ チ

釣もここまできると相当重症
？と、我ながら思うことがあり
ます。それはあくなき
釣への執念でもありま
す。

その一片を紹介する
と、毎日できるだけ多
くの新聞の釣情報に目
を通す。寝るときは、
ポイント図や参考書を
拡げ、記事との関連を

調べ、あの磯（いそ）、このハ
エで実際に釣つているところま
で連想しながら眠りにつく、と
ころが、考えすぎて目が冴（さ）
え、なかなか寝られない晩もあ
ります。

だから出漁の四、五日まえに
は、勝手知ったホームグランド
では、どの磯で、どのようにし
て釣るか計算ずみで、あとはお
天気次第となり、最近では、家
庭サービスで、出漁回数も減少
しましたが、幸い獲物もそこそ
こに恵まれ、効率的な釣をさせ
てもらっています。妻は、「登山
や、スキーの方がよかったの
に」と言いますが、生き物相手
の健全趣味で、そのうえ、お土
産つきでもあり、今さら「どう
にも止まらない」。

怖（こわ）い夢

一度でいいから釣の夢をみて
みたい、といつも思っています
が、不思議なことに未だかつて
みたことがありません。

大魚をかけて苦闘の末、もう
一息で取り込むところで目がさ
めたとか、よく散餌をしたお礼
に乙姫様から、竜宮城へ招待さ
れたとあれば、たいへん結構な
ことですが、時たまみるのは子
どもの時と変らず「コワイ夢」、
それは釣から帰ったときで、夜
行で行き、夜行で帰って睡眠不
足と、疲労が相当重ったときは、
得体の知れない魔物に襲われ飛
び上ることもあります。

何か武器はないかと探しても
その場では、石コロ一つ落ちて
いないものにして、冷汗ビッシ
ヨリ夕 釣場でなんか祟（たたり）
りを受けることでもしたのか？
また四国の山中で、何かにとり
つかれたのかと考えたりします
が、熟睡するともに解消する
次第でして、やれやれ……。

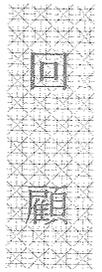
今年のデックカイ夢

大阪湾でも昨秋は、太刀魚や
鯖等が非常によく釣れました。
ただし、PCBや水銀の含有
はどの位であったか、安全の度
合は定かではありませんが、おそ
まきながらの水質規制で、水質
は相当好転したと聞き及んでお
り、近郊での釣の楽しみが残さ
れたことは、たいへん結構なこ
とです。

そこで今年のデックカイ夢とし
ては、魚も適当に休ませてやる
ことが必要です。人間様は休日
の増加で、大荒れでない限り、
入れ替り、立ち替り責めたる、
海中はテグスの林、空カン、ビ
ニール袋など一ぱい、これでは
魚は寄りつかなくなってしまう
ます。だから地域ごとに禁漁区
域を設け、磯の大掃除を併せ実
施します。

第二案としては、ガレキ等の
廃棄物は、不法投棄の素となり
ますので、コンクリートで固め、
二、三人ぐらい収容できる人工
磯を、どんどん増していく。新
らしい釣場ができるではありませんか
せんか？ ただし、大波で消え
てしまったのでは意味ありません
が、多少の移動は、趣があつ
て面白いと思いますが……。

それとともに、稚魚を増殖し
て放流することです。これは釣
具メーカーが率先して行なわな
ければならないと思います。魚
が釣れてこそ、釣具も売れるこ
とですから。どうでしょう、今
年は、魚も気分爽快、新しい
釣場でスレていないグラマーな
石鯛嬢や、グレ子が「待つてい
ましたわ」とジャカスカ釣に飛
びついてくると思うのですが……。
年頭にあたり、すべてが大漁
であることを、お祈りします。



回顧

(財)大阪防疫協会

山口弘恭

早いもので、「まこと」の発刊を始めて一年をむかえることになった。思い出は歳月とともになつかしく変わるものである。

防疫協会が生まれたときは、戦後の物も金も不自由なときであったが、とりわけ協会のお台所は、創立の意気込みとは裏腹に、それはさみしいものだった。当時の財源といえば、ゼロから出発したようなもので、どこからも経済的援助はうけなかった。僅かばかりの防疫薬剤と、ワクチンの取扱手数料くらいのものだった。当時はDDTだけの殺虫剤を扱うのに、空缶を返さないとか中味を供給されないようなありさまで、なかなか思うに委せなかった。また予防接種ワクチンでも、いまのように多くの種類はなかったように思う。おもなものは痘苗、ジフテリア、発疹チフス、腸バラ、コレラくらいのもので、比較的高価なインフルエンザ、日本脳炎ワクチンなどは無かった。ほとんどが価格の安いものばかりで、然も、

一般に被接種者の関心が低かったのか需要が少く、且つ配給にしばられていて、取扱っても労働多く、得られる手数料らしいものは、微々たるものだった。このように資金難のため、公益事業にあてる余裕を生み出すのに苦心したり、人件費にもこと欠くことがあって、協会の運営はなかなか思うようにゆかなかつた。それでも、志を立てた以上やりぬかねばと、現理事長の堅い決意のもとに、皆んなで一歩、一歩血のじむような努力をして、亀の歩みのようではあったが、ただ「まこと」一筋に進んできた。お蔭で各方面の皆様方からご指導とご叱声が得られ、最近にいたって各所に、事業部や出張所ができ、消毒、衛生害虫の防除、清掃管理、建築物の環境測定、産業廃棄物の有害ガス測定などの業務もやるようになり、苦しいながらも、なんとかしのげるようになった。有難いことである。

当協会がPCO事業の必要性に着目したのは、たしか二〇年ほど前のことだったと思う。手始めの仕事は、衛生面にも非常に良心的な考えをおもちの阪急電車の車内、駅舎、仮泊室などのリクetchャ消毒だった。いまでこそ厚生省や、大阪府当局の力強いあと押しで、この業態が育成されるようになり、(社)大阪環境衛生コンサルタント協会や、(社)日本ベストコントロール協会など全国の連合会が生まれ、社会的にも認識されるようになったが、当時は日の当る業種ではなかった。いま考えるところのような苦労話が多い。

私が過去において最もうれしかったのは、46年11月理事長が勲五等瑞宝章を賜わり、長年の苦労が報われた思いがした。いまも理事長は(社)日本ベストコントロール協会理事長、(社)大阪環境衛生コンサルタント協会々長の要職を兼ね、多忙な日々をおくられている。幸い、昨年四月に、元大阪府参事遠藤齊彦氏を、府当局に特に申請して技術顧問に迎え、陣容を充実して、多様化する新しい事態に対処しようとしている。

これからますます、公益法人としての機能を果たすことはもちろん、市町村の衛生業務遂行のため、あらゆる努力を傾倒、奉仕して、それによって協会と従業員が共に栄えなければならぬと思う。

(財)大阪防疫協会第二事業部

神庭芳男

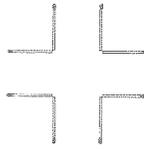
このためにはなお、なきなければならぬことが山ほどある。そのためにこそ私達一同は頑張りたい。(事務局長)

生き方

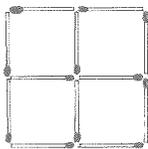
十年一昔というが、もう四十有余年にもなろうか。幼い日の思い出が、いまなお記憶から離れない。

マッチ棒クイズ二題

(一) 警官に追われた犯人が、十字路に逃げ込んだ。さて、犯人はどちらへ逃げて行ったのだろうか。マッチ棒を二本移動させて答え下さい。



(二) 十二本のマッチ棒で、連続した五個の正方形を作ってください。左のようにやっただけでは四個しかできません。もちろん半端にとびだしているマッチ棒があつてはいけません。



(クイズの雑学博士より)
△喜多V

人間の生き方はすこぶる複雑である。しかしながら、人間もまた、自然のリズムから、はみ出して生きるわけにはゆくまい。私もどうやら五十才を越えたいま、あれこれ迷ってどうなるものでもない。これからの人生は、生命(いのち)ある限り与えられた清掃業務(天職)をやりぬく覚悟である。それで、わが人生に悔いはない。

抱負

財大阪防疫協会第一事業部

中央出張所

新年を迎え、当事業部の使命である「ねずみ、衛生害虫防除」の信念と誇りに徹し、世の中に貢献する為には、我等一丸となりきる必要性がある。

より深く、より熱心に専門技術を修得し、専門知識を探究してこそ、自信が湧き、喜びを感じて、何時いかなる時態にも進んで対処出来るものである。この境地こそ顧客に対し「まこと」の精神で作業が出来ると共に、信頼を以って迎えられるにちがいない。

生活環境をより良くし、生活環境改善の一助を担う重大使命を自覚して、ともに手を携え希望に燃えて邁進する事を誓ってやまないものである。(向井)



(和田清孝写す)

現場作業状況